

2012.11

北海道新幹線時代の幕開けに向けた  
「カウントダウン・プログラム」



北海道総合政策部



# 目次

## 第1章 カウントダウン・プログラムについて

- 「カウントダウン・プログラム」策定の趣旨..... 1
- 「カウントダウン・プログラム」の事業展開の基本的考え方..... 2
- 「カウントダウン・プログラム」(概要)..... 3
- 「カウントダウン・プログラム」の展開イメージ..... 4

## 第2章 重点戦略

### I 「情報戦略」 ～情報発信と気運醸成～

- 1 観光客誘致の集中キャンペーンの展開
  - (1) 『開業プレイベント・カウントダウンイベント』の実施..... 7
  - (2) 統一テーマ等を掲げた気運醸成..... 7
  - (3) 開業記念事業(イベント・キャンペーン)の実施..... 8
- 2 情報発信の充実・強化
  - (1) クロスメディアの効果的活用..... 9
  - (2) 首都圏等での情報発信強化..... 9
  - (3) 道内外企業との連携によるPRの充実..... 9
  - (4) 『観光地域プラットフォーム』の構築..... 10

### II 「連携戦略」 ～地域間連携の拡大～

- 1 広域観光の推進
  - (1) 『道南周遊観光圏』の形成..... 13
  - (2) 道南地域と道内観光地を結ぶ観光ルートの形成..... 13
- 2 東北地域との交流の拡大
  - (1) 『津軽海峡交流圏』の形成..... 15
  - (2) 『北日本広域観光ルート』の形成..... 15
  - (3) 東北地域との連携・交流促進と気運醸成..... 16

### III 「交通戦略」 ～交通ネットワークの形成～

- 1 新幹線とつなぐ二次交通ネットワークづくり
  - (1) 二次交通アクセスの充実..... 19
  - (2) 総合的な情報案内機能の充実..... 19
- 2 交通ネットワークの基盤整備
  - (1) 高速道路・アクセス道路網の整備促進..... 20
  - (2) 航空・海上ネットワークの充実..... 20

## 資料

- 北海道新幹線の概要..... 23
- 北海道新幹線の輸送力(新函館(仮称)開業時)..... 24
- 北海道新幹線の所要時間(新函館(仮称)開業時)..... 24
- 他地域の開業後の利用状況..... 25

### 「カウントダウン・プログラム」策定の趣旨

- 北海道新幹線の新函館（仮称）開業まで、あと3年余りとなり、いよいよ「北海道新幹線時代の幕」が開かれようとしています。
- 新幹線の開業により、東京～新函館（仮称）間がこれまでに比べ1時間余り短縮され、約4時間10分で結ばれるほか、仙台からは約2時間半、新青森からは約1時間で結ばれることになり、本道にとっては、特に歴史的につながりの深い青森県をはじめとした東北地域や、北関東地域、首都圏など道内外における観光やビジネスなど様々な分野で連携・交流が拡大するとともに、東北地域と一体となった活性化と復興支援に大きく寄与するものと期待されます。
- こうした絶好の機会をとらえ、新幹線がもたらす大きな効果を道南地域はもとより、全道各地域に広く波及・拡大させ、多くの道民の皆様にも実感してもらうことが重要です。そのためにも、地域の個性や資源を生かした広域観光の推進や地域経済の活性化、道内の交通アクセスの充実などをオール北海道で進めていくことが必要であり、この度、こうした基本方向に沿って、取組の考え方や方向を示す「カウントダウン・プログラム」を策定しました。
- このプログラムでは、北海道新幹線新函館（仮称）開業の効果を最大限に高めるため、北海道新幹線時代の幕開けとなる平成27年度末に向けて、これまで以上に東北地域との連携・交流を深めていくことに軸足を置きながら、「情報発信と気運醸成」、「地域間連携の拡大」、「交通ネットワークの形成」という3つの重点戦略を展開することとしています。

「カウントダウン・プログラム」の事業展開の基本的考え方

【重点戦略】

- ◆ 「重点戦略」は、開業に向けて、様々な媒体や機会を活用しながら、切れ目なく北海道の魅力（北海道価値）を発信するとともに、道民の気運を盛り上げる「情報戦略」と、道南地域と各地域の観光地を結ぶ広域観光の充実や隣接県である青森県をはじめとする歴史的つながりが深い東北地域との連携・交流をこれまで以上に強化する「連携戦略」、開業効果を道南地域はもとより、全道に波及するための「交通戦略」の3つの柱で取り組みます。

I 「情報戦略」 ～情報発信と気運醸成～

II 「連携戦略」 ～地域間連携の拡大～

III 「交通戦略」 ～交通ネットワークの形成～

<期間>

- ◆ 平成24年度から新函館（仮称）開業（平成27年度末までに予定）を挟んだ平成28年度までの5年間としています。

<推進の考え方>

- ◆ プログラムを着実に推進するため、道が実施する施策・事業はもとより、道民や市町村、民間などとの協働による取組を進めるほか、国の施策・事業を積極的に活用し、情勢変化などに対応しながら、弾力的に展開を図っていきます。
- ◆ また、このプログラムの取組と併せて、新幹線効果を最大化するため、多彩なツーリズムの展開などによる滞在型観光地づくり、地域ブランドの確立などによる地域経済の活性化、地域資源を生かした魅力あふれる地域づくりなどに着実に取り組んでいきます。

<推進体制>

- ◆ 官民が協働で施策・事業を推進するため、幅広い分野の方々をメンバーとする官民連携の推進組織を設立するなど、市町村・経済界をはじめ、関係の皆様とともに具体的な取組を進めていきます。
- ◆ プログラムを効果的に推進するため、庁内に推進会議を設置し、全庁が一丸となって取り組みます。

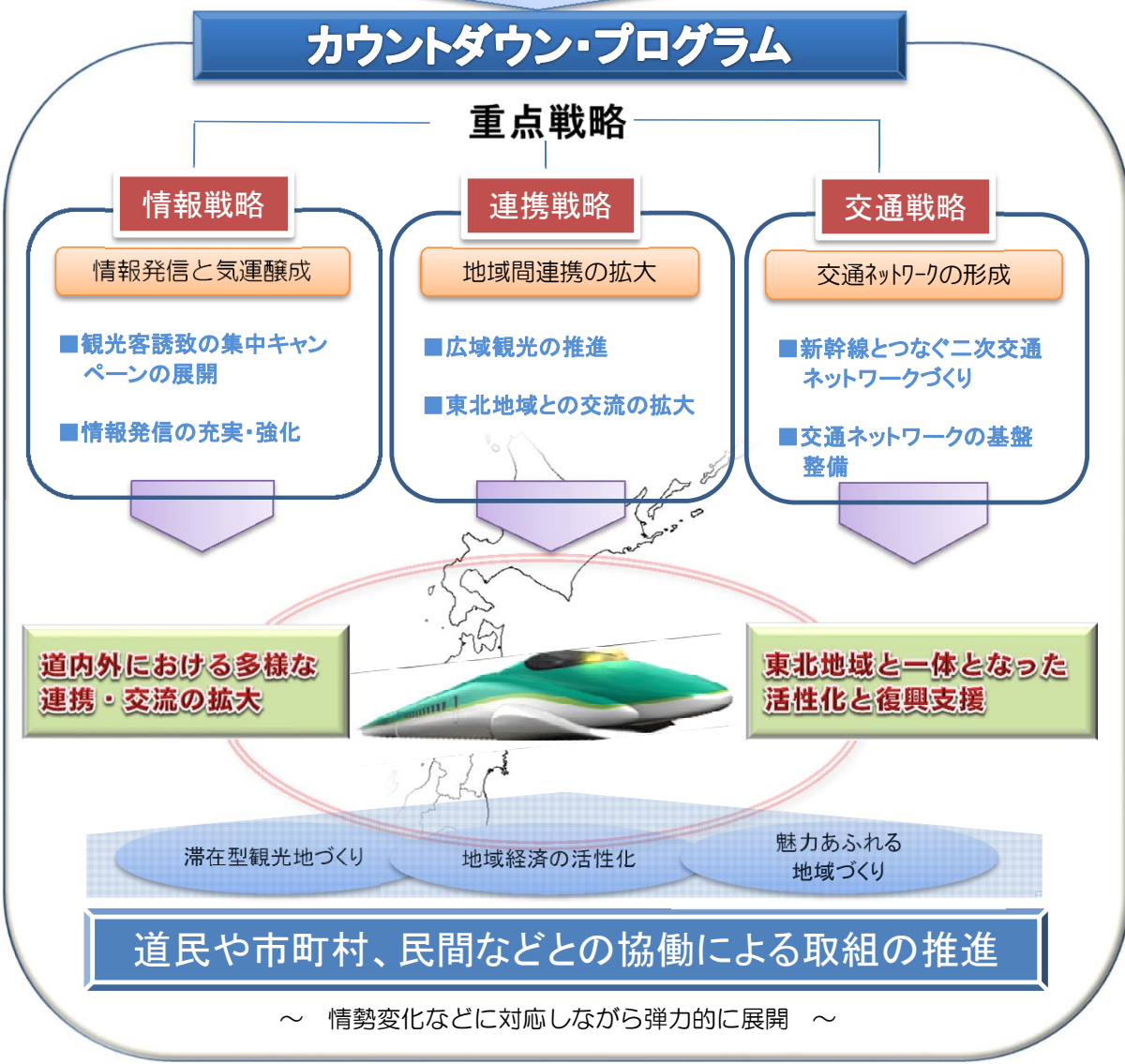
# カウントダウン・プログラム（概要）

## ～北海道新幹線時代の幕開けに向けて～

策定の趣旨

- 『北海道新幹線時代の幕開け』まであと3年余り
- 地域の個性や資源を生かした広域観光の推進や地域経済の活性化、道内の交通アクセスの充実などをオール北海道で進めていくことが必要

重点戦略



期間

◆ 平成24年度から新函館（仮称）開業（平成27年度末まで）を挟んだ平成28年度までの5年間

推進体制

- ◆ 幅広い分野の方々をメンバーとする官民連携の推進組織を設立
- ◆ 庁内に推進会議を設置